

ほっとネット

Contents

P1 巻頭言

双方向性の連携をめざして
副院長 四十坊 典晴

P1 第2回がん診療連携症例検討会を開催しました！

P2 特集

HCU開設にあたり
副院長 清水 斎

P3 診療科発

最先端の腹腔鏡手術システム
フルスペックハイビジョン3Dカメラシステム
ー消化器外科領域では道内初導入ー
外科 科長 鶴間 哲弘

P4 診療科紹介

コールドポリペクトミー
～偶発症の少ない大腸ポリープ切除法～
内科 消化器内科 主任医長 伊藤 美樹

P5 新任医師紹介

P5 セブンイレブンJR札幌病院店独自商品のご紹介

中央放射線室 井上 正住

P6 地域発

創成川イースト地区への開業に当たって 創世内科クリニック
院長 小番 英裕先生

新そらちゃん&はなちゃんシリーズ
“そらちゃんPSAが高い！”

JR札幌病院 間違い探しゲーム
ほっとネット42号当選者発表



スプリングコンサート(3月18日)



入社式(4月1日)

JR札幌病院 基本理念

心の通う医療
信頼される医療
地域社会に貢献する医療

基本方針

1. 社会のニーズに合った専門的な医療を提供するよう、医療技術の向上に努めます。
2. 患者様の権利を尊重し、プライバシーを守ります。
3. 地域の各機関との連携を重視し、地域医療に貢献します。
4. JR北海道の職域病院として、社員・家族の健康増進に寄与します。



H24.7.6 日本医療機能評価機構より
ver.6.0の認定を受けました。



巻頭言

双方向性の連携をめざして

JR札幌病院は、地域に根ざしたより良い医療の提供と信頼される人間医療をめざしており、多くの専門の診療科を有する総合病院として、双方向性の病診連携、病病連携を深めていくことに常に努力しております。当院は急性期病院として効率化を図るため、平成26年4月からDPC対象病院となり、以前から導入していた電子カルテはシステム刷新し、がん治療のレジメ機能、クリニカルパス機能も充実され、より良い医療が提供できるようになるように努力しております。さらに、患者様を紹介して頂くために、種々の取り組みを行っております。まず、呼吸器領域および消化器領域のがん診療を充実させ、平成28年4月から北海道がん診療連携指定病院となっております。地域の諸先生からがんでお困りの症例に関しても対応できる体制を整えておりますので、ご相談、ご紹介よろしくをお願いいたします。また、平成28年7月より、地域包括ケア病棟を当院でも開設し、退院まで日数を要する高齢者やリハビリを必要な症例に対応でき

るようにしましたので、対象となる患者様がおりましたら、ご相談、ご紹介よろしくをお願いいたします。さらに、急性期医療を充実させるために、より重篤な症例の入院治療が必要な患者さまの応需のために、HCU（ハイケアユニット）を平成29年4月から開設し、循環器内科、外科、消化器内科、呼吸器内科で行っている救急対応をさらに充実させる予定です。いずれの取り組みも地域医療連携センターを介して行っておりますので、詳細に関しては地域医療連携センターにお問い合わせください。

今後も諸先生の御支援を頂きながら、地域に根ざしたネットワークの構築を目指していきたくと考えておりますので、御協力よろしく御願ひ致します。

末筆ながら、諸先生がご健勝で活躍されることを御祈念申し上げます。



副院長
四十坊典晴

第2回がん診療連携症例検討会を開催しました！

当院は、北海道がん診療連携指定病院の役割の一環として、地域の医療従事者の皆さまをお招きして一緒に学ぶ「がん診療連携症例検討会」を、下記内容で3月15日（水）に当院講堂で開催しました。

1. HCU（ハイケアユニット）の新設（講師：JR札幌病院 地域医療連携センター長（病院長）安藤利昭）
2. ご紹介いただいた消化器がん患者様の症例について（講師：JR札幌病院外科科長 鶴間哲弘）
3. 当院の患者・家族が求めている緩和ケア（講師：JR札幌病院 緩和ケア認定看護師 佐藤奈緒美）

会場には連携先の医療従事者の皆様と当院の関係者約50名が参加しました。始めに4月に開設するHCU・救急体制をご案内し、続いて、実際にご紹介いただき当院で手術を行った3症例の治療方針や術後の経過、病理結果について、ご出席いただいた先生方と情報共有いたしました。また、今年度に新規に導入した3D腹腔鏡による手術動画もご紹介し、当院の最先端の手術に関心をもっていただけたと思います。緩和ケア認定看護師からは、患者・家族が求める緩和ケアについて、早期から関与した事例展開をお話させていただきました。

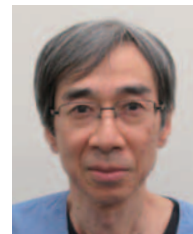
今後もよりがん診療体制の充実、連携活動の推進を図っていくため、連携医療機関の皆様方とお互いの知識を深める機会になれるよう努めて参りたいと考えています。

ご協力いただいた皆様方には深く感謝いたします。今後とも何卒よろしく御願ひ申し上げます。



特集

HCU開設にあたり



副院長

清水 齋

この度、HCU（ハイケアユニット）が開設されました。場所は入院棟3階で、手術室と3東病棟の間に位置し、新築時にリハビリ室という名で整備されたところ。この病棟の名称HCUとは、集中治療室（ICU）と一般病棟の間に位置する病棟を指し、準ICUとも言われま。しかし、実際には1病床の占有面積、看護配置、専従医の有無などに基づく診療報酬の違いでHCUとICUを区別しているのが現状です。

当院のHCUでは、主に心筋梗塞などの循環器重症疾患、急性呼吸不全、侵襲の大きい大手術後の全身管理を担う場と想定していますが、各診療科のニーズに応じて、広く利用してもらいたいと思います。このHCUの機能により、今まで各病棟に分散していた重症患者を集約し、迅速で安全な集中治療を行うことが可能となります。

ここで言う集中治療とは何かですが、教科書には「内科系、外科系を問わず、呼吸、循環、代謝などの主要臓器の急性機能不全に対し、総合的・集中的に治療・看護を行い、回復させることを主題とした学問であり、疾患

別、臓器別に関係なく、横断的に全身管理を行う侵襲管理学、重症患者管理学」として定義されています。やや分かりにくいですが、病気で障害をうけた臓器をサポートしつつ、他の身体の機能を維持し（全身管理）し、原因の治療をして、回復することを目標にします。そのためには、様々な生体モニターを駆使した高度な医療技術が必要です。

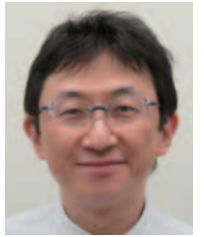
さらに集中治療の特徴として、チーム医療があります。複数科の医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士、薬剤師、臨床検査技師などの多彩な職種が協力し治療にあたります。

HCUは、各職種の持てる力を結集して高度な医療を提供し、急性期病院としての機能を高める場と言えます。HCU開設が、重症患者や救急患者の受け入れ体制の充実の一助になり、地域社会から信頼される病院として成長していくことを期待しています。



診療科発

最先端の腹腔鏡手術システム

フルスペックハイビジョン3Dカメラシステム
— 消化器外科領域では道内初導入 —外科 科長
鶴間 哲弘

3D映画を知っていますか？ 専用の眼鏡をかけて見ると、従来の平面的2D画像とは全く違い、リアルでダイナミックな画像がすぐ目の前まで飛び出してくるように見える映画です。私が初めて見た3D映画は恐竜映画で、画面から抜け出して来た恐竜に食べられそうな感じになり、体が何度も揺れ動いたのを覚えています。家庭用テレビでも3Dテレビが発売されており、既にお持ちの方もいらっしゃるのではないのでしょうか？羨ましい限りです。実は、この3D技術は映画やテレビだけではなく、医療分野にも普及し始めています。



図1.専用の眼鏡をかけて見ると、リアルでダイナミックな画像が飛び出してくるように見える3D映画

胃癌や大腸癌などの手術は、従来はお腹を大きく切って悪い部分を切除していましたが、近年ではお腹に小さな穴を数か所開け、そこから筒状のカメラを挿入し、お腹の中の状況を画面に映しながら穴を通して専用の手術機器を使用して患部を切除する腹腔鏡手術が増えています。当院でも従来の開腹手術に代わり腹腔鏡手術の割合が年々増加してきています。腹腔鏡手術のメリットは、なんといっても創が小さく、術後の回復が早いことです。腹腔鏡手術ではカメラでお腹の中の状況を拡大しモニターに映し出すので、開腹手術より細かいところまで認識でき、より正確な手術が可能となります。このカメラシステムも近年、技術革新が進んでいます。当初は画像も荒くモニターも昔の家庭用テレビ同様のブラウン管でした。その後、カメラシステムがハイビジョン化され、モニターも高画質薄型液晶モニターとなりました。当院では、昨年12

月より消化器外科領域では道内で初めてフルスペックハイビジョン3Dカメラシステムを導入しました。このシステム導入により、お腹の中の状況が立体的に見え、神経の走行から脂肪組織の分かれ目まで鮮明に認識できるようになりました。それに伴って、手術中の出血も減少し今まで以上に正確かつ安全な手術が可能になりました。



図2.フルハイビジョン3Dカメラシステム導入により3D映画同様の専用眼鏡をかけて手術をしています

先日（平成29年3月15日）当院で開催された『がん診療連携症例検討会』では、この3D画像を実際に見ていただき体感していただきました。本当は、皆さんにも見て実感してもらいたいものですが……。



図3.手術中に実際に装着する3D専用めがね

今後とも最先端の医療機器、高度の医療技術、温かい心で、患者さんの治療を行ってまいりますので、体の調子がおかしいと思った時にはいつでも受診してください。

コールドポリペクトミー

～偶発症の少ない大腸ポリープ切除法～



内科 消化器内科
主任医長

伊藤 美樹

JR 札幌病院消化器内科は現在医師6名が在籍しており、消化管（食道、胃、十二指腸、小腸、大腸）、肝臓、胆道、膵臓など、消化器疾患全般の診療を行っています（写真1、2）。消化器疾患によって、腹痛、胃もたれ、胸やけ、はき気、のどの違和感、食欲不振、膨満感、便秘、下痢、下血など、さまざまな症状が起こりえます。このような症状は消化器以外の臓器が原因となることがあり、内視鏡検査、超音波検査、CT検査、MRI検査、採血など様々な検査を行い、総合的に診断・治療を行っています。

当科では幅広く内視鏡検査・治療を行っています。特に最近では大腸ポリープ切除術の1つである「コールドポリペクトミー」が行われており、ご紹介します。

従来、大腸ポリープ切除は高周波通電（電気メス）で「焼き切る」ことが普通でしたが、熱凝固による偶発症（穿孔や後出血）の危険性がありました。一方、コールドポリペ

クトミー（非通電切除）の場合は、熱凝固の影響を受けません。切除後はわずかに出血しますが数分で止まり、やけども起こさずにポリープを切除することができます（写真3）。

これまで1cm未満の微小なポリープは切除せずに経過観察にする傾向がありましたが、放置した病変は増大する可能性があります。コールドポリペクトミーにより微小なポリープも患者様の負担なく切除することができるため、ポリープを残すことによる病変増大の不安も軽減されます。

大腸内視鏡検査時にポリープを認めた場合、その場で切除することが可能です。しかし、コールドポリペクトミーには大きさなどに制限があります。また、ポリープ切除後は一定期間の食事制限（香辛料の強い食事やアルコール摂取）や生活の制約（スポーツ・遠方への旅行や出張を控える、など）が必要となります。あらかじめ担当医にご相談ください。

外来、病棟、内視鏡室、生理検査室、診療放射線室など各部門と協力し、緊急を要する患者様についても随時、早期に適切な治療を行えるよう対応しています。お困りのことや不明点などありましたら、お気軽にご相談ください。



写真1：内科 消化器内科医師4名。



写真2：内科 消化器内科医師と外来スタッフ。

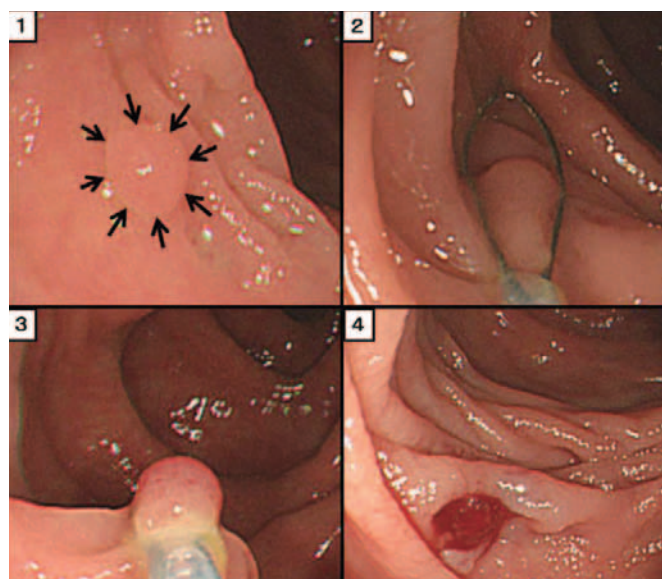


写真3：コールドポリペクトミーについて。

- ① 大腸ポリープを発見します
- ② ポリープにスネアをかけます
- ③ スネアをしめて、ポリープを切除します
- ④ わずかに出血しますが、自然におさまります

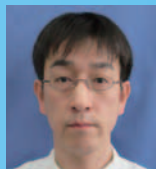
新任医師紹介

①略歴 ②専門分野 ③趣味 ④一言



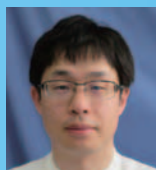
麻酔科 **浦濱 聡**

- ①平成18年札幌医大卒、札幌鉄道病院で初期研修後、札幌医大麻酔科入局、日鋼記念病院、小樽市立病院、NTT東日本札幌病院を経て、平成29年4月より当院勤務。
- ②麻酔科、臨床麻酔
- ③映画鑑賞、家族と旅行
- ④初期研修以来、約10年ぶりのJR病院です。あの頃より少しは出来るようになったと思います。患者様と執刀医が安心して手術に臨めるように努力いたします。



循環器内科 **吉岡 拓司**

- ①平成11年札幌医大卒、同内科学第二講座入局、札幌医科大学附属病院、市立釧路総合病院、函館市医師会病院、旭川赤十字病院、手稲溪仁会病院等の勤務を経て、平成29年4月から当院勤務。
- ②循環器内科、内科一般
- ③子供とお出かけ、温泉めぐり
- ④患者さんに信頼される、心の通った診療を心がけます。どうぞよろしくお願いいたします。



外科 **奥谷 浩一**

- ①平成14年札幌医科大学卒業し同第一外科入局。小樽掖済会病院、滝川市立病院、市立芦別病院、市立室蘭総合病院を経て平成29年4月より当院勤務。
- ②消化器外科
- ③スポーツ観戦
- ④患者さんの視点にたった医療を心掛けたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



消化器内科 **石上 敬介**

- ①平成21年札幌医大卒。札幌医大附属病院、市立室蘭総合病院、道立江差病院、札幌同交会病院を経て平成29年4月から当院勤務。
- ②消化器一般
- ③スポーツ観戦
- ④フットワーク軽く、丁寧な診察を心がけます。



歯科口腔外科 **阿部 結奈**

- ①平成22年北大卒、同口腔顎顔面外科学教室入局、平成28年同大学院卒業、博士号取得、北海道中央労災病院勤務を経て、平成29年4月より当院勤務。
- ②歯科、口腔外科
- ③ドライブ
- ④患者さんにとって最善の治療ができるよう、努力します。よろしくお願いいたします。

セブンイレブンJR札幌病院店 独自商品のご紹介

インタビュー 中央放射線室 **井上 正住**

セブンイレブン JR 札幌病院店では通常のセブンイレブン店舗と違い病院独自商品を多数品揃えしております。そこでさっそく店長の難波史帆さんにその商品についていろいろとお聞きしました。

①病院店独自商品を扱うことになったきっかけは？

私が店長として赴任する以前からある程度の病院独自商品は扱っておりました。ですが、やはり病院内店舗という視点から、他の病院で展開している商品を独自調査し、また院内の先生や看護師、直接お客様からのご要望に出来るだけお応えできるよう努力させていただき現在に至っています。

②主な独自商品は？

スリッパ（転倒防止シューズ）、尿取りパットやオムツ類などの入院時に必要となりそうな商品を多数品揃えしております（写真1）。食料品ではたんぱく質制限のあるお客様向けのお菓子、減塩調味料（小包装タイプ）やお惣菜など多彩に提供しております（写真2）。下着類など衣料品もありますし、ケア帽子（写真3）や、陳列はしていませんが毛付き帽子（ウィック）もありますのでスタッフに声掛けしてください。珍しいモノとして通常のストッキングの他に弾性ストッキング（ジョブストストッキング）も販売しており、病院価格にて提供しています。また、入院患者様が病室で使用するTVカードやイヤホンも販売しています。自店ではいろいろな商品を品揃えしておりますが、お買い求めの際には是非「nanacoカード」をご利用下さい。ポイントが付くのでオススメです。

③その商品の売れ行きは？

入院時に必要となりそうな商品は多数品揃えし売れています。独自商品ではありませんが、文庫本（書籍）は、全国のセブンイレブンの中でも群を抜いて種類豊富に取り揃えています。また、「セブンカフェ」も多くのお客様にご利用いただいております。

④今後の展開として何か考えていることはありますか？

入院患者様や外来のお客様にもっと利用していただけるよう、お客様の声をお聞きしながら、入院グッズや食料品の品揃えを強化したコーナーの設置を考えています。また、その時はnanacoカードでお買い物して頂きますようよろしくお願いいたします。

お忙しい中、店長の難波さんにはいろいろとご対応いただきましてありがとうございました。



写真1



写真2



写真3

地域発

創成川イースト地区への開業に当たって 創世内科クリニック

院長 こつがい ひでひろ
小番 英裕先生



本年1月10日にサッポロファクトリーの一ブロック程西側に創世内科クリニックを開業させていただきました小番英裕と申します。地域医療に携わってきた経験と私の医師としての人生をこの地域や札幌市民の皆様の健康とご多幸の為に捧げさせて頂きたいと願って開業となりました。人間をトータルに診て、トータルに癒す。その為に内科全般を広く、浅く（ところどころ深く）、精神科も広く、浅く（時に深く）（気分障害、神経症性障害、ストレス性障害、老年期精神障害、発達障害などを中心に）、漢方薬（中医学と日本漢方折衷）も運用するという独特の方針を取ってきました。的確な診断は患者さんをお救いするための門ですから、検査機器は必要最低限のものは備えました。さらに抗加齢医学の知見を生かして予測し、予防する医療によって患者さんが元気に長生きし、天寿を全うして下さるお手伝いさせていただき医療を目指して参りました。

私は夕張の最盛期（昭和32年）に生まれ、その後街は衰退の一途を辿り、多くの親友が東京や各地に散ってゆきました。何とも寂しくも虚しい体験でした。このような背景から、私は人間の絆を失った切れた凧の様に生きてしまった若き時代がありました。しかし40年以上の歳月を振り返ると、今の自分があるのは、様々な人々との出会いによって導かれて来たことを見えてきます。そんな感慨の中、人々に寄り添って、その全体を

見つめ、そこで求められていることにお応えし、お返してゆく働きをしたいという思いが募って参りました。自分の裁断と責任であらゆる人々に深くかかわり、心身をトータルに診る医療、これは江戸時代の赤ひげや、現在に至る諸先輩が町医者として実践して来られた道であり憧れです。そのために私は勤務医を辞めて開業を選びました。病院や専門医と地域住民をスムーズにつなぐクリニック、そのクリニックに行けば様々痛みの解決の糸口が見つかり、見守ってくれていると思われるクリニックになって参りたいと思います。日本が元気になるためには、一人ひとりの日本人が元気になるってゆかねばなりません。一人一人が元気になるってゆくに医療だからこそ出来ることがあると信じます。その為には専門医と町医者（家庭医）の共同が必要であると思います。この願いは多職種の地域連携によって一層果たすことが可能になります。この仕事は、地域で尽くされておられる諸先生や医師会、札幌市を中心とする行政の支えがあって初めて燃え尽きることなく継続的に可能になると思われまます。創世内科クリニックはこれより皆様のご指導、ご鞭撻を頂きながら今まで経験していない新しい地域医療、総合医療の時代を切り開いて参りたいと思います。皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。



創世内科クリニック

住 所 札幌市中央区北1条東3丁目2-2 シティハウス札幌大通東1F
電 話 011-272-7111
診療時間 9:30~12:30、14:00~18:30（木曜・土曜は12:30まで）
休 診 日 日曜・祝日



新そらちゃん&はなちゃんシリーズ

“そらちゃんPSAが高い！”



そらちゃん

はなちゃん

そらちゃん 「はなちゃんよ～検診に行ったら前立腺のUSAが少し高いぞ！
と言われたんだよ」

はなちゃん 「それはPSAでないの？前立腺がんの検査で前立腺肥大、前立腺の炎症でも上がるやつだよ」

そらちゃん 「じゃあ、肥大症にしておこう」

はなちゃん 「待ってよ、PSA値は、4～10ng/mL未満でも前立腺がんが発見される確率は25～30%あるよ“まだ前立腺癌じゃない”ではなく、危険域にあると考えるべきだよ」

そらちゃん 「ふ～ん、かんべいさんもそうだったね！」

はなちゃん 「前立腺がんは、いまや日本では男性のがんの患者数が18万人と第1位になって、毎年1万人以上が亡くなっているよ！アメ

リカでも多く、社会問題になってたけど、50歳以上の75%が検査を受けていて早く見つかって、死亡率が45%も低下したんだ！」

そらちゃん 「ほくメタボだけど、食べ物関係ある？」

はなちゃん 「日本で急激に前立腺がんが増えたのは、食生活の欧米化(高脂肪・高カロリー)にも一因があると考えられているよ、野菜を中心にビタミンやミネラルを摂ろうね」
「検査は生検と言って、組織を取って顕微鏡で見て判断するんだ、最近では治療もいろいろあって、最先端の、手術用ロボット“ダヴィンチ”も普及してきたよ」

そらちゃん 「わかったよ！ママにも検査受けさせるね！じゃあバイバイ」

はなちゃん 「ちょっと待って～、女性には前立腺はないんですけど」

クイズに答えて
景品を当てよう!!

JR札幌病院 間違い探しゲーム

2つの写真から、5つの間違いを探そう！
正解者には、抽選で図書券がもらえるヨ
息抜き、暇つぶし、頭の体操にやってみよう～

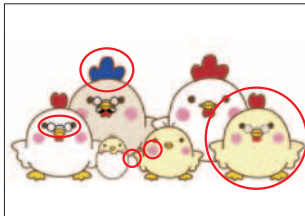
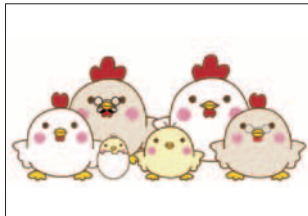


応募要項

応募期間：平成29年6月1日～6月30日
応募方法：応募用紙の写真の間違い箇所には○を入れ、地域医療連携センター前に設置の応募箱へご投函、又は、紙面上の写真を切り取って(コピーも可)○を記入し、住所・氏名を記載の上郵送でご応募ください。
応募先：〒060-0033 札幌市中央区北3条東1丁目 JR札幌病院 地域医療連携センター ※氏名の公表を希望されない場合はペンネームを掲載いたします。
発表方法：広報誌「ほっとネット」紙面上にて発表いたします。

ほっとネット42号当選者発表

5つのまちがいは



応募総数 **35人**

抽選の結果、次の5名の方に図書券をお送りいたします。

大西 たかね 様、大久保 政義 様、
夏目 健文 様、松本 道明 様、若狭 千恵 様、渡邊由美子 様

編集後記

2年前人生初のマラソン大会に参加しました。思いつきで参加したため練習もままならなかったのですが、地域の方々の沿道での応援やボランティアで大会を支えている方々の暖かさに触れ、完走することができました。今年も何かにチャレンジしようと思っていますが、なかなか時間が無いのが現実…。まずは子連れ女子キャンプ実現させたいなあ～。(おせん)

発行日/2017年6月1日

編集長/伴 紀宏

編集者/大村 早代・小野 雅子・川村 千晶・河野 通晴・中村あゆみ

夏目 健文・松本 道明・若狭 千恵・渡邊由美子

発行所/札幌市中央区北3条東1丁目

JR札幌病院 広報誌企画編集委員会

<http://www.jrsapporohosp.com>